

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団	代表者	野口雅滋	法人・ 事業所の 特徴	事業所の理念【「思い」暮らし「絆」を支援する】を職員全員が共有し実践できる体制を構築し、利用者の「思い」の実現に向けた支援を目指しています。事業所は長年、地域の人々に親しまれた集会場を改修併設され、地域福祉の拠点となっています。地域行事等、地域の住民協働による活動に積極的に参画し、地域との繋がりを大切に事業運営をしています。
事業所名	京都厚生園松尾の家	管理者	志田彰大		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	1人	人	6人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所評価、総括表の改善計画に対しての取組みが伝わるよう運営推進会議の内容について再検討を行う。</li> <li>サービス評価、運営推進会議、ご利用者支援、事業所の取組みが連動できる仕掛け、仕組みの検討実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善計画に対しての取組みの中間報告として運営推進会議にて取組み状況の報告を行った経過はあるが、あまり効果は感じられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このサービス評価は毎年同じ項目なので大変ですね。</li> <li>改善計画に対して目の前の出来ることから取り組んでおられたように思います。</li> <li>昨年度に比べて出来ている、と評価した職員が増えたことは良いことだと思います。</li> <li>このサービス評価そのものがどうなのかと思うこともある。京都市が指定しているものなので致し方ないが、現場に即したもののか気になる箇所もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス評価、運営推進会議、ご利用者支援、事業所の取組みが連動できる仕掛け、仕組みの検討実施(継続)</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の設え・環境を知って頂くために運営推進会議の場において事業所内の見学会を実施し、客観的なご意見を伺い環境改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度当初の運営推進会議にて事業所内見学を実施。新型コロナの影響もあり数年間地域の方に事業所内を見ていただくことが出来ていなかったため非常に良い機会になった。この数年間で設えも大きく変わっており経過含め説明を行うことが出来た。ただ機会としては1回のみであり委員の方々からの意見をいただくまでには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段から松尾の家に入出入りしているわけではないのでしつらえや環境、音やにおい、鍵が効かっているかなどを問われても答えにくい部分が多い。</li> <li>設備の定期的な点検はされていますか。⇒保守点検は定期的に行っています。</li> <li>夜間停電時の非常電源は確保されていますか。⇒非常電源はありませんが、懐中電灯・ポータブル電源の確保は行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議に限らず、地域の方や関係機関に事業所内を見ていただく機会を増やす。そのうえで客観的な意見をいただき環境改善につなげる。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア再開の検討</li> <li>ご利用者と共に地域行事への参加や可能な範囲での協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア再開の検討に向けて意欲はあったものの結果的には再開には至らず地域行事への参加は少しずつ再会できている。今年度は間接的なから子供祭りに参加できたこと、事業所から地域の子供が楽しめるように企画した内容が好評だったことは評価したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所が相談しやすいかどうかという2階に包括支援センターがあるので相談しやすい場所になると思う。ただ松尾の家がというよりは併設事業所が相談窓口であるということが理由だと思うが役割分担が出来ているので良いことではないか。</li> <li>地域でも単身高齢者が増加しており自らが困りごとの相談が出来ない方多い。</li> <li>域でも認知症の方や気になる方の共有をしているが、老人福祉員の負担が大きくなってきている。</li> <li>コロナ前に活動していたボランティアの方も高齢になり継続困難な方が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までにこだわらずボランティア受け入れ再開をする。</li> </ul>
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別事例を通してご利用者と地域、今までの繋がりを大切にネットワークづくりを実践。</li> <li>事例報告会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部独居高齢者の支援については 地域住民や郵便局、コンビニなどの繋がりを繋げネットワークをつくり在宅での生活を継続できたケースがある。</li> <li>事例報告会についてはできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所の心配な高齢者へは老人福祉員が中心となり関りをしている。何かあれば包括支援センターへ相談するようにしています。</li> <li>地域や関係機関との情報共有が大切だと思う。松尾学区では老人福祉員が中心となり活動をしているが、負担が大きくなってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別事例を通してご利用者と地域、今までの繋がりを大切にネットワークづくりを実践(継続)</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議の開催方法や内容についての検討、修正、実践</li> <li>多くの方に参加いただける運営推進会議となるよう工夫改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議の開催方法や内容については検討、修正まで至らず。参加者についても工夫改善が図れなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の心配な方の情報共有の場は包括支援センターと行っている。求められる項目が重複しているのであれば共同したらよいのではないか？ 包括も小規模のスタッフも忙しいと思うので</li> <li>他学区や利用者、利用者家族の参加が増えればよいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他学区、ご利用者、ご利用者家族に参加いただける会議にする。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時事業継続計画の見直し(まずは拠点レベルでの防災、災害対策の見直し)</li> <li>訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時事業継続計画の見直し、訓練時の実施は行えたものの松尾の家として災害発生時の協力体制などの検討には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に松尾の家が頼りになれば越したことはないが、地域としても松尾小学校を避難場所として対策や準備はしている。高齢者の対応もありどちらかという地域が助けられないといけない場面もあるかもしれない。</li> <li>松尾の家は包括と小規模が施設として併せて防災や災害対策を考えていった方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時事業継続計画の見直し(まずは拠点レベルでの防災、災害対策の見直し(継続)</li> </ul>